

令和元年度 学校自己評価表 (計画段階・**実施段階**)

学 校 経 営 計 画 (4月)		評価 (3月)		
学校運営方針	校訓に掲げる精神に基づき、心身ともに逞しく文武両道を身につけ、氣高さを追求する豊かな人間性と創造性を備えた生徒を育成する。			
昨年度の成果と課題	今年度重点目標	具体的目標		
地域・保護者の期待に応える高いレベルの教育活動を行うことで、模試において県で常にトップレベルの学力を示すことができた。今年度は開校5年目となるため、中学3年間の教育課程の充実と共に、中高6年間の教育課程の充実とその運営体制の整備を図る。	1 新たな学びの推進と生徒の個性や能力を伸長する丁寧な指導により、生徒の進路実現の支援を充実する。 2 指導と評価の一体化により生徒の意欲を引き出す授業改善を図る。 3 文武両道の教育活動を広報することで、地域に根ざし、地域に信頼される学校の活性化を図る。 4 中高一貫キャリアプログラム「嘉穂 Dream Compass」を軸として、地域と世界に目を向けたグローバル人材の育成を推進する。	1 主体的・対話的で深い学びや ICT を用いた授業を展開し、生徒の探究心を育てる。「鍛ほめ嘉穂メソッド」を推進し、自尊感情や 逆境に立ち向かう力をつける。 2 授業を計画、実施した後の評価を次に生かすことで、指導と評価の一体化を図り、主体的に学習に取り組む生徒を育成する。 3 文武両道の精神を重んじ、学習や部活動、学校行事での生徒の活躍を地域に広報し、地域の本校への期待と信頼を確かなものとする。 4 地元の自治体、企業や大学等と連携を図り、広い視野に立って考える力やコミュニケーション能力を養い、将来国内外で活躍できる人材を育成する。		
各 部	今年度重点目標			
1 教務部	確かな学力・高い志・豊かな心を持った生徒を育成するための効果的かつ効率的な教育課程の計画・運営・評価・改善を着実に実施する。			
2 研修部	効果的なアクティブラーニングと ICT 教育の融合を図り、思考力・判断力・表現力を育成するための教育方法を開発する。			
3 キャリア教育部	常に高い目標を掲げて、何事にも真摯に取り組む姿勢と確かな学力を身に付けるとともに、広い視野と行動力を持ち、社会や地域の発展に貢献せんとする「志」ある生徒を育成する。また、総合的な学習の時間を中心に嘉穂ドリームコンパスの充実を図る。			
4 生徒指導部	人間としての「氣高さ」を追求するとともに、自ら学び、自ら伸びるための主体的な行動ができる嘉穂高校附属中学校生徒としての誇りと確かな学力を兼ね備えた生徒を育成する。			
5 人権・特別支援教育部	他者に対して思いやりの心をもつとともに、グローバルな広い視野を持った生徒の育成を育成するための教育方法を工夫し、実施する。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題
教務部	1 学校の教育目標の具現化に向けた教職員一人一人の自覚と、組織的・協働的な教育活動を実施する。	校務分掌業務内容一覧表に基づき、一人一人の責任の明確を図るとともに、部会を定期的に行うことで着実な業務遂行を図る。	A	A ・校務分掌内で連携を図り、効果的かつ効率的な教育課程の計画・運営を着実に実施する。 ・学力向上のために、指導方法の改善、評価資料の着実な収集を行い、指導と評価の一体化を図る。 ・日々の教育活動や部活動・学校行事等の様子を、家庭や地域に通信やホームページで随時発信し、開かれた学校づくりを目指す。
	2 高校と行事や時間割等の連携を図り、意図的・計画的な教育活動を推進する。	教務主任同士の連携を密にするとともに、6年間を見通した学校暦の作成を協働で行う。	B	
	3 評価や評定の校内規準を作成・明確にし、指導と評価の一体化を図る。	定期考査の内容の充実を図り、観点別評価を行うための評価資料の着実な収集を実施する。	A	
	4 公簿の管理や成績等の事務処理の効率化と正確化を図る。	成績管理係、教育情報管理係が連携し、成績管理を確実に行う。また、公簿の管理を厳正に行い必要に応じて指導する。	A	
	5 家庭や地域及び関係機関との連携による開かれた学校づくりを推進する。	各部と連携を図りながら、家庭や地域を巻き込んだ行事計画を作成し、着実な実施を図る。	A	

研修部	1 アクティブ・ラーニングを推進することで、学力の向上を目指す。	日常的に授業研究を行い、年間一人最低一回の公開授業を行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上に向け、一人一回の公開授業、協議会、研究のまとめを行うことができ、成果と課題をもとに、全教科の授業で共通して取り組むべきことなどを明らかにする必要がある。 ・ICT 機器を日常的に使用することができた。さらに、県や国での効果的な事例を共有して実践していく仕組みを作っていく必要がある。 ・授業アンケートの結果を授業改善に活かすことができた。次年度以降も継続して行う
	2 ICT 機器を活用した授業を推進する。また、ICT 機器を活用した授業モデルの確立を目指す。	話し合い活動の場面へのICT機器の効果的な導入を進める。	A		
	3 日常の学習指導方法の工夫と改善を推進し、学力向上・定着を図る。	年間2回の授業アンケートを実施する。また、校内研修において、アンケート結果を共有し、改善策を共有する。	A		
	4 高校・大学との連携を図った授業研究、実践を行う。	各種講演会、高校生との交流などを積極的に行い、効果的な中高大連携プログラムを開発する。	A		
キャリア教育部	1 一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す。	効果的・効率的なキャリア教育年間指導計画の作成を行うことで、基礎的・汎用的能力を着実に育成するプログラムを開発する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中高連携において、お互いの活動内容の周知徹底をこれまで以上に図っていく。 ・プログラムの見直しや精選を図り、効果的・効率的な運営を図る。 ・「総合的な学習の時間」が体験学習の実施が精一杯の状況があるため、柔軟性を持って実施できるように計画を練る。
	2 社会における自らの役割について考えさせ、肯定的自己理解と自己有用感を持たせる。	毎日の係活動や清掃活動、行事の時の係活動などを丁寧に行わせることや、一人一人が輝く場面を提供することで自尊感情を高める。	A		
	3 総合的な学習の時間を中心とした中高大連携・体験活動・キャリアプランニングの各プログラムを実施する。	高校のキャリア教育部と連携し、6年間を見通した中高連携・体験活動・キャリアプランニングを組み合わせた「嘉穂 DreamCompass」の総合計画を実行する。	A		
生徒指導部	1 生徒が自律的な生活態度を身に付け、いじめのない学校生活を送ることができるように指導の重点化を図る。	毎日の係活動や行事において、生徒が中心となって活動するよう仕組むことで、自律的な生活態度を身につけさせる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の指導では、いじめ・不登校対応のため、担任のサポート体制やスクールカウンセリングの充実などに力を入れる。 ・生徒会活動をさらに活性化させるために学校行事などを中心に生徒が企画運営していく場面を増やしていく。 ・部活動をさらに活性化させることで、生徒の学校生活を充実したものとする。
	2 学年毎に、生徒の課題や発達段階に応じた指導プログラムを作成し、効果的な指導プログラムを策定する。	不登校の未然防止のため、学級活動や道徳の時間にSEL8S やグループエンカウンターなどの参加型学習を取り入れた、着実な実施を図る。	A		
	3 生徒会役員を中心に、行事や委員会活動等で計画的に取り組むことができるようにする。	生徒会を中心に、行事や委員会活動の動かし方を学ばせることで、組織の動かし方を実感させ、リーダー性を育む。	A		
	4 各部が部活動のねらいを理解して計画的に活動できるようにする。	部活動係を中心に高校の部活動との連携を図り、効果的かつ効率的な部活動の運営を図る。	A		
人権・特別支援教育部	1 生徒が人権の問題を自分の問題として考えられる取組を実施する。	生徒がいじめや差別を、自分のこととして考えられるよう、日々の生活に根ざした教育内容になるよう工夫する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の授業等で、人権感覚がしっかり育つよう取り組んできた。今後も情報交換を随時行える指導体制を維持し、人権感覚のさらなる醸成を図る。 ・人権に関する知的理解だけでなく、体験的な学習を増やすことでさらなる人権感覚の育成を図る。 ・人権教育や特別支援教育に関する専門的知見を高める為に、校内外での職員の研修の充実を図る。
	2 直接体験の重視をした指導計画と、科学的認識を育成する指導計画を作成し、実施する。	人権教育の視点で教育課程を見直し、教科・道徳・特別活動の指導計画に直接体験や科学的認識を育成するための授業を導入する。	A		
	3 特別支援を必要とする生徒の実態を全職員が共通認識し、指導方法の工夫改善をする。	科学的な調査を基に、特別支援が必要な生徒の実態を明らかにするとともに、特別支援教育校内委員会を中心に指導方法の工夫改善を実施する。	A		
	4 専門機関による特別支援に関する研修から専門的見地を深め広げ、全職員の共通理解を図り、連携体制を構築する。	スクールカウンセラーを中心に特別支援教育に関する校内研修を行い、全職員の識見の向上を図るとともに、カウンセリングの効果的な実施を図る。	A		

第Ⅰ学年	1 嘉穂高校附属中学校生としての誇りと自覚を持たせ、自ら学び自ら伸びようとする意識を高めさせる。	生徒に「一人一役」を与え、自身の学級への所属感を育てるとともに、規範意識の醸成を図る。また、学年通信を毎週発行し、学校での様子を伝えたり、返信欄を利用して保護者と連絡を取り合ったりすることで、学校と家庭で指導意識の共有化を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活に負担を感じる生徒を減らすため、様々な行事やイベントで所属感を感じさせることができるようになった。 ・学習においては、主体性の足りない生徒が多く見られるため、目標を意識させることで、日々の学習に有用性を実感できるような取り組みを各分掌と連携しながら行っていく。また、苦手意識を持つ生徒への支援の充実を図る。
	2 自身の適性や能力について理解させ、学ぶ意欲の向上を図る。	学習規律の確立のもと、「わかる授業」を実施し、課題については提出率100%を目指す。また、良い行いはその場で取り上げ褒める。	A		
	3 「人生の目標」、「働くことの価値」を見つけさせ、その実現に必要な能力を身に付けさせる。	「嘉穂 DreamCompass」の取り組みを充実させ、体験活動の機会を多く設け、自身の将来にさまざまな角度から考えさせる。自身の好きなことや興味のあることなどを研究し、論文にまとめる「一人一研」に積極的に取り組ませる。	A		
第Ⅱ学年	1 嘉穂高校附属中学校生として「今こそ出発点」の学年目標のもと、自覚を持たせ、自主・自律の精神を養う。	自主的に活動に取り組ませるために、学級活動や学校行事などで積極的に参加する気持ちを育てる。学年通信を毎週発行し、学校での様子を伝え、返信欄を利用して学校と家庭の連携を密にする。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・嘉穂高等学校附属中学校の中堅学年として積極的に物事に取り組む態度を育成し、自ら考え、自ら学ぼうとする姿勢を持った生徒の育成を図る。 ・あらゆる活動において、生徒がリーダーシップを発揮することができるよう、リーダーとしての資質を高めるべく、学級活動等を通して適切に助言、指導する。
	2 他者に対する思いやりの心を育ませ、互いを尊重し大切に作る集団作りに努める。	すべての教育活動をとおして、言葉遣いやマナーに関して徹底した指導を行うとともに、他者のよさに気づくような学年・学級での活動を行う。	B		
	3 意欲を持って、主体的に学習に取り組む生徒を育てる。	日々の授業改善を全職員が協働して取り組むことで、わかる楽しさを味わえるアクティブラーニングを取り入れた授業に努める。	A		
第Ⅲ学年	1 生徒、教師、保護者、全員で協力し、学校生活に臨む姿勢を身に付けさせ、認め合い、高め合う意識を育てる。	さまざまな場面で、さまざまな問いかけを行うことで、生徒自身が考え行動する場面を設定していく。また、基礎学力の充実を図ることをとおして、さらなる好奇心を引き出し、自ら学ぼうとする意識の高揚を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・伸び伸びとした考え方や行動の仕方を今後も継続して伸ばしていく。 ・基礎学力の充実を今後も徹底し、やる気と好奇心をさらに引き出し、学習意欲を高め、自ら学び、自ら伸びようとする態度を育てる ・嘉穂高校進学後は、学年の核となり、リーダーシップをとることの出来る集団となるよう、指導を継続していく。
	2 支えあい、高めあう人間関係をつくることで共に伸びようとする意識を高める。	たくさんの生徒のよさに気づかせる学級掲示や通信の発行を通し、一人一人の生徒のよさに気づかせる。また、真剣に物事に取り組ませることで協働の大切さに気づかせる。	A		
	3 さまざまな活動を通して、強い自己肯定感を持って行動できる生徒集団を育成する。	学習や、部活動、生徒会活動および学校行事などの場面でさまざまな活動に挑戦させ、ほめることをとおして自信を持たせる。	A		
嘉穂ドリームコンパス	1 キャリアプランニングプログラム、グローバルプログラムを推進することで、「志」の育成を目指す。	I年生では、宿泊研修や一人一研、地域調べ学習、II年生では、職業調べ学習や宿泊研修、調査研究、III年生では大学訪問や修学旅行、調査研究を中心として、さまざまな活動を行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「志・文・武」のどの観点においても、生徒の資質を十分に醸成することができていると考える。今後は、より効果を上げることができるよう取り組みを充実させていく。 ・嘉穂ドリームコンパス（KDC）成果発表会の充実に向けて、附属中の取組の再点検を行う。
	2 学力伸長プログラム、個に応じた指導を推進することで、「文」の育成を目指す。	各教科を中心に各種コンクールに積極的に参加する。また、公開授業を行い、わかる授業の実施に力を入れる。	A		
	3 高校の伝統行事に積極的・主体的に参加することや部活動の活性化を推進することで、「武」の育成を目指す。	潤陵祭や大運動会をはじめとする伝統行事に、学級や部活動として主体的に参加していく。	A		